

(一)

同済大学 夏の短期中国語研修プログラム研修報告書

文学部2年 辻本千尋

私が2025年8月18日から9月2日まで短期留学したのは、中華人民共和国上海市にある同済大学です。中国東部の長江河口に位置する上海の夏は、日本よりも湿度が高く、猛暑日も多いため、決して過ごしやすい気候とは言えませんでした。それ以上に得るものが本当に多くありました。

今回の研修プログラムを通して、私は大きく2つのことを体感し、理解を深めることができました。(1) 中国（上海）の人々や文化について、そして(2) 中国語を通して中国語を学ぶことの意義についてです。

(1) 上海の人々・文化について

まず驚いたのは、上海浦東国際空港から高速道路で移動する際に目にした集合住宅の多さです。写真1はそのときに撮影したのですが、中心部から郊外にかけて高層住宅が途切れることなく並び、それぞれの窓からは洗濯物が張り出されていて、人々の生活の様子が垣間見られました。これだけでも中国の人口の多さを実感でき、非常に興味深かったです。交通事情に関しては、日本と比べると危険が多く、慣れるまでは外出するのも一苦労でした。自転車だけでなくバイクも歩道を走っており、歩行者優先とは言い難い状況です。しかも電動バイクが多いため、音もなく近づいてくることがあり、気づかないまま接近さ

れることもありました。通行量も非常に多く、事故を避けるためにクラクションが頻繁に鳴らされていました。

・食文化の発見

写真 2～4 は、滞在中に撮影した朝食の様子です。学食や現地の飲食店の多くは朝早くから営業しており、出勤・通学前の人々に朝食を提供していました。豆乳、茶葉蛋、包子などの定番メニューをセットで注文したり、茹でたトウモロコシを追加したり、朝から麺料理を井いっぱい食べる人もいて、それぞれが好みの朝食を楽しんでいる様子でした。

それを見て、以前中国人留学生の友人が、私の菓子パン一個の朝食を見て「中国人はしっかり朝食を食べる」と言っておかゆを分けてくれたことを思い出しました。実際に現地ですっかり朝食をとってから学校に向かうようにすると、その日一日が明らかに調子良く感じられました。行きの飛行機からは、長江沿いに区画整備された広大な田畑が見えました。上海の物価は中国国内では高い方ですが、食品に関しては日本よりもはるかに安く、朝食を満腹になるまで食べても、基本的に日本円で 300 円以内に収まりました。安価で温かい朝食を楽しむことで、気持ちよく一日を過ごすために、みんな早起きをしているのだろうと感じました。また、上海は大都市であるため、江南料理だけでなく哈爾濱料理など、国内各地の料理を味わうことができました（写真 5～7）。どの地方の料理も美味しく、馴染みのある味付けもありましたが、雲南料理は東南アジア風の味付けで、地域によって個性がはっきりしていました。一方で、日本料理や韓国料理の店（写真 8）はよく見かけましたが、

イタリア料理やフランス料理などの海外料理専門店はあまり見かけなかった印象です。

- ・ 現地の人々との交流

上海に行く前は、現地の人々とうまくコミュニケーションが取れるか、誤解を生じさせてしまわないか心配していました。しかし、実際に会った方々は気さくで親切な方が多く、安心して過ごすことができました。時期的に反日感情が高まっているのではないかと懸念していましたが、店などで日本人だと伝えても特に問題はありませんでした。

大学近くのお店の方に「留学生？你的汉语很好！」と褒めてもらえたときは、とても嬉しかったです。地下鉄などでは、席が少しでも空くと近くの人に座るよう促したり、子どもが遊んでいると親が声をかけて一緒に談笑したりと、知らない人同士でも気軽に会話をする姿が印象的でした。

放課後や休日には、歴史的な観光地にも足を運びました。竜華寺（写真 9）では、みんなが線香を持って東西南北に礼拝し、仏像の前では撮影を控えて跪き、熱心に祈っている様子が見られました。私もその様子を真似て一緒に祈ってみましたが、良い体験だったと思います。豫園では、遺産がイルミネーションや音楽で彩られていて驚きました（写真 10）。また、日常の大切な場面でチャイナドレスや漢服を着ている人も多く、現地の人々が伝統や文化を大切にし、受け継いでいることを強く感じました。

（2）中国語を通して中国語を学ぶ意義

これまで私は、日本語を通して中国語を学んできましたが、同済大学のプログラムでは

中国語で中国語を学ぶ授業を受けました。これにより、聞き取りや会話力が鍛えられるだけでなく、言葉のニュアンスや文化的背景をより直接的に理解することができたと感じています。例えば、「然後」「以後」「之後」の違いなど、日本語では微妙なニュアンスを説明しづらい場合でも、中国語で例文を交えながら説明を受けることで、現地の人と同じ感覚で理解することができました。また、「蘇州の園林や杭州の西湖は天界を模している」と日本語で説明されてもイメージしづらかったのですが、先生が「天帝」や「神仙」といった言葉を使って説明してくれたことで、より具体的に想像することができました。

言語は、その言語を使う人々の文化・価値観・思考の源だと思います。今回の体験を通して、ほんの一瞬でも彼らと同じ視点に立てたような気がしました。授業内で自分の発音や文法を確認できたことで、校外でも中国語で会話を試みる勇気が持てるようになり、最終日には研修期間中の一日を切り取った日記を中国語で読み上げ、無事に発表することができました。

今回の研修を通して、自分の世界が確実に広がったことを実感しています。2週間、中国語が飛び交う環境に身を置いたことで、本当に良い刺激になりました。また機会を作って、ぜひ再び中国を訪れたいと考えています。



写真1 高速道路から見た風景



写真2 鮮肉包



写真3 饅頭



写真4 胡辣湯



写真5 上海の小籠包



写真6 江南烩面



写真7 雲南料理



写真8 日本料理屋の鰻丼



写真9 竜華寺



写真10 豫園

(二)

同済大学研修レポート

文学部文化人類学専攻2年 学生番号 012400147 王詩音

はじめに

今回、私がこの研修に参加した動機は主に二つあった。一つは研修先が上海であること。もう一つは大学のプログラムとして同済大学で学べることである。私は幼少期に上海に一度行ったことがあったが全く記憶がなく、再び訪れたいと思っていた。また、非常に発展の進んでいる中国でも最大の経済とグローバリゼーションの中心地である上海を実際に見てみたいと考えた。同済大学という学びの場があることで、単なる旅行ではなく実際の学生生活が体験できることも魅力の一つだと思った。

1 同済大学での語学研修

私たちは中国語学習レベルに応じて同済大学で受講するクラスを分けられた。私は中級クラスに参加したが、ドイツのケルン大学とハノーファー大学と合同だった。ドイツからの研修参加者たちは非常に快活で授業中の発言にも積極的で、私はこの研修を通してたくさん刺激を彼らからもらった。担任の先生はいつも授業の最初に「昨日やったことをクラスのみんなに共有してみて！」と発言を促したり、私たちの関心のあることについて掘り下げたり、自発的なコミュニケーションをサポートしてくれた。

授業は教材に沿って進められたが、先生は「自然な中国語」を学ぶことをモットーに、テーマについて掘り下げたり、説明の難しい語彙や表現は英語を交えて説明してくれたり非常にわかりやすかった。

2 文化体験と観光

プログラムの一環で上海の様々な主要なスポットを訪れることができたのは最大の利点だと感じる。上海博物館、東方明珠、豫園、田子坊などを訪れた中で私が最も印象に残ったのは黄浦江でのナイトクルーズだ。外灘と浦東の夜景を船の上から眺めると、上海が中国の経済の中心地であることが実体として感じられるほど壮観な景色だった。この研修

プログラムはほとんどがドイツの大学と桜美林大学と合同であったため、彼らと一緒に回ったり、交流できたりしたのは良い思い出となった。

3 休日

平日は中国語の授業と研修があったが、土日は自分たちで行きたいところを計画し自由に過ごすことができたのも大きなポイントだった。私は4日間あった休日を活かして蘇州、杭州、上海ディズニーに行った。

その中で、私が最も印象に残ったのは杭州だ。私は中国語のクラスで仲良くなったハノーファー大学やケルン大学の友人と杭州を訪れたが、そこは私の人生の中で見た景色の中でもトップクラスに美しいと感じた。私たちは西湖の周辺を散策したり、船で西湖を縦断したり、龙井茶（緑茶の一種）を飲んだりと杭州での一日を満喫した。西湖は朝が美しい、はたまた日没が美しい、冬が美しい、雨の日が最も美しいなどされている。私が訪れたのは真夏の昼間だが、それでも存分に美しかったため、願わくは四季をここで過ごし西湖のあらゆる姿を見てみたいと思った。

景色が素晴らしかったのはもちろんのこと、私が杭州の一日で最も良い経験だったのはドイツの学生と一緒に過ごしたことで、私たちの共通言語である中国語を一日中使ったことだった。上海にいるとはいえ普段は他の研修参加者といることが多かったので日本語ばかりになりがちだが、否応なしに中国語を使う状況にすることで自身のスピーキング能力の向上になったし、異なった環境に身を置くことの重要性を体感できた。

終わりに

私が16日間上海で過ごして感じたことは、異文化の中に入りそこで過ごすことで自身の価値観や視野が広がるということだ。他の参加者は中国を訪れるのが初めてという人も多く、最初はカルチャーショックで戸惑う様子が多かったが、だんだんと馴染んでいて最後には「出会った人たち全員良い人で、良い体験だった」と言っていた。外からだとわからないことや誤解されたように映る事柄も、自ら体験し内からの視点で捉えれば異文化の理解につながるのだろうと思った。

私は元々異文化研究を志していたため、この経験は私の学問へのモチベーションにも大

きく影響を与えたし、将来は海外で働きたいという漠然とした夢への想いも強まった。この研修を通してたくさんの友人ができたり、様々な経験ができたり、良い刺激が得られたように思う。

(三)

1. はじめに

私は現在2年生で、中国語の学習を始めたのは大学からでした。言語学を専攻していて様々な言語に興味があり、一年半勉強した中国語の学びを深めたいと考え今回の留学を決めました。二週間の滞在で、平日の午前中は中国語の授業、午後は文化体験、また休日は自由行動というスケジュールでした。このプログラムには桜美林大学と中央大学の学生も参加しており、新しい友達ができました。

2. 授業について

授業でははじめ初級クラスにいましたが、もう少し難しい内容に取り組みたいと考え中級クラスに移動しました。中級クラスでは先生がほとんど中国語で説明しており、私には分からないところも多くありましたが友達に聞いたりその場で調べたりして理解するよう努め、その過程がよい勉強になったと思いました。また同様のプログラムでドイツから来ていた留学生と一緒に授業を受けることになり、その子たちと中国語と英語でコミュニケーションを取りながら一緒にご飯に行ったり遊びに行ったりして授業外でも親交を深めることができたのが良かったです。

3. 生活について

次に生活についてです。食事は基本的に各自でとるということでショッピングモールや大学付近の店に行き毎日現地の料理を楽しみました。中国では店にメニューがたくさんあり、

料理名からどんな料理なのかが分からないことも多く、漢字から予想したり調べたりして食事の種類の豊かさも楽しかったです。また中国は飲料も美味しいものが多く、様々な種類のミルクティーやフルーツティーを飲みました。

また中国ではレンタル自転車が非常に普及しており、街中に黄色や水色の自転車が置かれています。大学への登下校や最寄り駅への道中に自転車を借りることが多かったです。上海は一般のイメージよりも治安が良く人々も友好的であると感じた一方で、交通については危険な場面が多く気を付けて走行しなければ簡単に事故にあってしまうようでした。

4. 自由時間について

二回の週末は自由行動ができたので、様々な場所に行き観光しました。遠いところだと高速鉄道を使って蘇州と杭州へ行き観光名所や有名な食べものを楽しみ、上海市内だとショッピングモールや上海ディズニーにも行きました。

5. 言葉について

現地の人々との会話はもちろん中国語でした。私は簡単な中国語しか話せませんが、商品名の発音を調べあえて話すようにしていました。また地下鉄やお店などで見かけた漢字の発音を調べていき、話せる言葉を増やしていきました。中国語は、日本で勉強しているとどうしても漢字の意味を元にして語彙を増やしてしまい、話す力と聞く力を鍛えるのが難しいと思います。ですが実際に中国で生活すると漢字よりも音が先行するので中国語の力をつけたいなら現地に行くのが一番だと、他の言語よりもそう感じました。

6. まとめ

第一に私が感じたのは、実際に行ってみることで上海の印象が大きく変わるということです。上海の街は名古屋のように地下鉄やバスが発達しており交通の便がよく、アプリでの決済が基本で、発展した街並みとシステムは日本よりも過ごしやすいと感じた時もありました。また現地の人々は注文や決済を助けてくれるなど親切な方が多いです。残念ながら「中国人」だからという固定観念を持っている日本人が多くいるように思いますが、実際に現地の方と交流してみると印象は全く変わると思います。

また、他大学やドイツの学生と交流でき、一緒に中国語を学べたことがとても良かったです。同済大学の教員の皆さんや中国交流センターの皆さんが非常に優しくしてくださり、普通の留学ではできない体験や交流をすることができました。

中国語を学び、国際交流をし、中国の文化を楽しむことができた今回の研修では、ここに書ききれないほどの経験をする事ができ、参加して本当に良かったと思ったと同時に絶対にまた上海に行きたいと思っています。

(四)

授業の様子

中国語のネイティブの先生から中国語を教わりました。高校の英語の授業のように、文字から論理的に外国語を理解していくやり方に加え、音から感覚的に中国語を学ぶことができました。授業中は日本語を使用しないためはじめは不安でした。しかし、日本語に頼らなくなるため、中国語とその単語のイメージが直接つながり、まるで母国語を学んでいるように感じることができました。自分は英語を話すとき、初めに日本語の文が頭に浮かび、それを英語に訳して話そうとする癖があります。日本語に頼らず外国語を感覚的に学ぶことが、この悩みを解消することができるのかなと感じました。

日本との違い

最も文化の違いを感じたのは交通関係です。中国では原付バイクを乗るのに免許がいらないため、多くの人が原付を利用しています。そして、歩道を走っている原付が何台もあることや、歩行者優先が徹底されていないために交通事故を起してもおかしくないと感じました。また、中国ではクラクションが鳴り響いているためはじめは少しストレスを感じました。しかし、徐々にクラクションにも慣れ、堂々と歩いていれば交通事故は起きないことが分かりました。

また、中国は日本に比べてが物価が安い傾向にありました。特に、地下鉄やフルーツの値段が安いと感じました。個人的にはミニトマトが非常に安かったのでおすすめです。

授業外での活動

平日は授業が午前中に終わり、午後はバスで観光地や博物館、美術館に行きました。船の上から見た、上海の夜景が最も印象的でした。休日は、授業がなく各自で観光をしました。自分は中国に行ったら内陸部の自然を観光したいと考えていたのですが、上海の都市部に泊まるため、遠くて行くことができなかったのは残念でした。そこで私は、上海植物園で自然を味わいました。上海植物園はほかの観光地に比べ、観光者が少なく落ち着いた雰囲気です。自然を味わえるため非常におすすめです。

最後に

今まで海外に行ったことがなかった自分としては、とても新鮮な気持ちでたくさんのことを経験することができました。その中で、中国語の能力だけでなく、自分の考えや精神的な面においても成長することができたかなと感じました。このプログラムで感じたこと、学んだことを忘れず、中国の文化や中国語を学び、より深く中国に関わっていきたいです。

(五)

研修での体験

今回の研修では、午前中の授業に加えて、午後は主要な観光地を巡ったり、文化体験をしたりとさまざまな活動に参加し、非常に充実した毎日を過ごしました。その中で私が一番心に残っている体験は、ナイトクルーズに乗って東方明珠の美しい夜景を眺めたことです。どの活動も私にとってとても貴重な体験で、二週間の中で多くの学びを得ることができました。

活動を通して得られたこと

もともと、今回の研修には「中国語をたくさん使って自信をつける」という目的で参加しました。しかし、はじめのうちは緊張して思うように話せなかったり、自分から積極的に話しかけることに躊躇してしまったりしていました。

それでも、授業では発言の機会が多く設けられていたことや、他国(おもにドイツ)からの学生たちと交流する中で、「もっと中国語でコミュニケーションがとりたい!」という気持ちが強まりました。その結果、自分から積極的に声をかけて中国語を使おうとする姿勢が身についたと感じています。

最後に

二週間という短い期間ではありましたが、多くの人との交流を通じて、素晴らしい出会いと忘れがたい思い出ができました。今回の経験は、私にとって一生の宝物です。この二週間で

得た学びや刺激を活かして、今後も中国語学習に励み、中国語能力をさらに向上させていきたいと思います。